

# 文学言語学科

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 伊藤了子	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 対話式授業を実践している。	2000～2005	例1：「文法の授業において、一方的に教科書を説明するのではなく、予習を課し、予習の段階で抱いた疑問点を教室で皆と一緒に考え、明らかにするという方法をとっている。また、教科書の例文はすべて覚えることを前提にしているので、毎回、前回の学習範囲の例文に関する小テストを行っている。質問はメールでも受け付け、随時答えるようにしている。
	2005.4～9月	例2：「作文」の授業では、後半に課した作文を授業外で添削し、問題点をいくつか取り上げ、次の授業で詳細な説明を加える。質問は随時受け付けている。
	2000～2005	例3：演習は、対話式が最も有効に働く授業である。考える力、聞く力および批評する力を養うため、発表を聞いた後発表者に対して適切なコメントをすることを課している。教師は発表に関してのみならず、聞いている学生のコメントの内容、仕方についてもコメントし評価する。
2 作成した教科書、教材、参考書 「自己作成したレジュメ」	2005.4～9月	例：フランス語史の授業：言葉の歴史に興味を持たせるため、導入にフランスの漫画を使ったり、最古の文献である「シュトラスブールの誓約」ほか、各時代の原文に少しづつ触れることも行っている。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項		

# 教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	浦 啓之	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>多人数の講義形式の授業においてもできるだけ教師から生徒への一方通行的授業は避け、生徒に実際的に手と頭を動かすことを積極的にさせるような授業を心がけた。</p>	<p>2000.04 ～ 2004.03</p>	<p>通常言語科学関係の講義では、教科書を読ませて基本概念を理解させるとともにその内容を講義者が説明・解説するという形式で授業運営を行い、それらを授業外の時間に習得させるというような教育をするのであるが、このようなやり方では実践的な言語分析能力の習得には繋がりにくいので、基本概念を理解させた後直ちにまず練習問題を数多く行わせることをし、生徒たち自ら考えさせ時にはあえて混乱をさせたり間違いを犯させたりすることで、try &amp; error により実践的言語分析能力を自発的に身につけさせるような工夫を行った。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 自作プリント</p>	<p>同上</p>	<p>上記の授業運営方法を実践するためには、既存の市販教科書に使用に耐えるものは皆無なので、自らプリントを作成した。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>なし</p>	<p>同上</p>	
<p>4 その他教育活動上特記すべき</p> <p>①高等学校への出張講義</p> <p>②梅田キャンパスにおける公開授業</p>	<p>同上</p>	<p>①兵庫県立小野高校など数校へ出向いて、言語の科学とはいかなる学問であるのかという、初学者向けの授業を数回行った。</p> <p>②ゼミの授業の一環として、各学期の終了時に梅田キャンパスの教室を借りて、公開授業を行った。これは、ゼミの所属学生に限定せず、他のゼミ・他学科・他学部・更には近隣大学で同じテーマを扱っている学生などに参加してもらい、ゼミ所属学生たちに研究発表を行ってもらうものである。また、卒論発表会も同種の参加者を募り、毎年11月に梅田キャンパスで行っている。</p>



## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 大橋毅彦	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p><b>1 教育内容・方法の工夫</b> (授業評価等を含む)</p> <p>「日本文学文献研究Ⅰ」における視 聴覚資料の活用</p> <p>「日本文学文献研究Ⅱ」における 視聴覚資料の活用</p> <p>「日本文学演習Ⅰ」における校外学 習の実施</p>	<p>2004年4月 ～2005年3月</p> <p>2005年4月～</p> <p>2005年6月</p>	<p>分析対象が活字資料にとどまるものではないことを発見させ、かつまた学生の興味、関心をひきだすために、講義のテーマと連動する、戦時下のいわゆる国策映画や現代の中国映画のハイライトシーンを紹介したり、流行歌を活用したりした。</p> <p>“日本近代文学の中国体験”というテーマを掘り下げるため、舞子にある孫文記念館見学を実施、中日関係の裾野の広さを認識させた。</p>
<p><b>2 作成した教科書、教材、参考書</b></p>		
<p><b>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</b></p>		
<p><b>4 その他教育活動上特記すべき 事項</b></p> <p>兵庫県三田市社会教育委員</p> <p>神戸婦人大学講演</p>	<p>2004年4月～</p> <p>2004年12月</p>	<p>施設部会委員として委員会に参加</p> <p>授業の一環として講師を勤め「日本近代文学と上海」と題して講義</p>

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 小川 暁夫	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	-------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<b>1 教育内容・方法の工夫</b> （授業評価等を含む）  ① あくまで学生の興味、内容理解を中心に据えた授業形態。  ② 学生参加型、学生が自己発見できる授業への取り組み。	2004年4月 ～ 2005年9月	① 多人数履修の授業においては、学生の理解度を学生の反応からつかむことが困難であるため、各回の授業の初めにその回の講義内容に関するプリントを配布している。プリントには学生自らが参加できるよう質問を加えている。授業の最後にプリントを回収し、次の授業において返却することにより、授業内容を思い出させ、継続性を維持することに寄与している。  ② 少人数履修の授業においては、学生の関心を引き出し、又積極的に発言できるようにするため、具体的で身近な材料を提示し、そこから抽象的で理論的に高度な内容に至れるよう、工夫している。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>  ① 自己作成したプリント  ② 著書『現代ドイツ言語学入門』	2004年4月 ～ 2005年9月	① 各回の授業におけるトピックをプリントとして作成した。  ② 左記著書から特に重要と思われるテーマを学生に紹介し、内容理解の深化及び発展を促進した。
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>  日本独文学会シンポジウム 「ドイツ語研究と言語類型論」	2005年 5月4日	左記シンポジウムにおいて、言語研究の知見に基づいた言語教育への実践の可能性について論じた。
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>  ① 文学部・カリキュラム委員  ② 文学部・教務主任	① 2004年 4月～20 05年3月  ② 2005年 4月～	① 文学部のカリキュラム編成・改変について検討した。  ② 文学部における授業形態全般について検討した。

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 小倉 肇	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)  パソコンを用いた語学研究のための演習	2000年4月～  2005年7月	パソコンを用いて、語学的なデータ分析の方法を習得し、各自の研究に役立てることを目的とした。ワープロ(エディタ)によって作成されたE-text(電子テキスト)を基に、データ検索、使用語彙表・KWIC索引の作成などを行い、問題の設定の仕方、資料の収集・分析の方法、問題解決の手順などについて、自覚的に身につける訓練をする。
2 作成した教科書、教材、参考書 「日本語学概論講義資料」 「日本語学入門講義資料」 「日本語音声・音韻論講義資料」	2000年4月～  2005年7月	「日本語学概論」「日本語学入門」: 講義内容に即した資料・文献の抄出、方言地図の影印などを作成。  「日本語音声・音韻論」: 日本漢字音を学ぶために必要な、中国音韻学の基礎的な基本事項、日本漢字音の資料ならびに『韻鏡』の影印などを作成。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項		

## 教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	小澤 博	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p><b>1 教育内容・方法の工夫</b></p> <p>1) 学生による授業評価の実施</p> <p>2) 視聴覚メディアの利用</p> <p>3) プリントの使用</p>	<p>1) ~ 3) 1999年 4月~</p>	<p>1) ゼミ以外の科目で各 Semester 終了時に、使用したテキストの難易度、講義内容の問題点・改善点、良かった点、について自由形式のアンケートを実施し、教授方法の改善に努めてきた</p> <p>2) 演劇の演習では、必要に応じて関連する映画や演劇のビデオ・CD等を編集し、学生の理解を助ける補助教材として使用してきた。</p> <p>3) 大講義室での講義では、毎回、講義の内容に沿った図版やテキストのプリントを用意し、各自が講義内容やコメントを余白へ書き込むことで、充実したノートが完成するように工夫してきた（配付資料をファイルすると一冊の講義ノートが出来上がる）。</p>
<p><b>2 作成した教科書、教材、参考書</b></p> <p>1) 自己作成したプリント</p> <p>2) 入門書の分担執筆</p> <p><b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b></p> <p>専門雑誌に教授法についての所見を寄稿</p>	<p>1999年 4月~</p> <p>1999年 12月</p> <p>2000年 4月</p> <p>1996年 8月</p> <p>1999年 7月</p> <p>2002年 11月</p>	<p>毎回、講義の内容に沿った図版やテキストのプリントを用意し、各自が講義内容やコメントを余白へ書き込むことで、充実したノートが完成するように工夫してきた（配付資料をファイルすると一冊の講義ノートが出来上がる）。</p> <p>アエラムック『シェイクスピアがわかる』（朝日新聞社）</p> <p>『シェイクスピアを学ぶ人のために』（世界思想社）</p> <p>『英語青年』第142号6巻（研究社） 特集：これからの大学英文科</p> <p>Shakespeare News, XXXIX: 1（日本シェイクスピア協会） コラム：「教室のシェイクスピア」</p> <p>『英語青年』第148号第9巻（研究社） 特集；英文学の教え方</p>



<p>4 その他教育活動上 特記すべき事項</p> <p>1) 一般向けの講演、 市民講座</p> <p>2) 文学部教務副主任</p> <p>3) 文学部FD委員</p>	<p>2001年 11月 30日</p> <p>2005年 5月 11、 18日</p> <p>2)、3) 2001年 4月～ 2003年 3月</p>	<p>丸善マンスリー・セミナー（丸善河原町店） 「シェイクスピア劇の中心と周縁」</p> <p>西宮インターカレッジ（西宮市民大学交流センター） 英文学レクチャー「シェイクスピアへの誘い」</p> <p>文学部教務副主任として2003年度から開始の学部改組・ 新カリキュラム作成に取り組んだ</p> <p>文学部FD委員として、全学のFD委員会に出席し、授業評価の あり方や方法について検討した</p>
--	--	---

## 教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	影山太郎	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2000年4月～ 2005年7月	担当科目は、大別すると、多人数の講義（毎学期、150名から300名の講義を複数担当）と少人数の演習（25名程度）に分かれる。しかし受講生の人数に関わりなく私が一貫して持っている授業姿勢は、(1)アメリカの諸大学におけるように、日本人の受講生にも「学生としてのプロ意識」を持たせて積極的に授業に参加させること、そして、(2)たとえ大人数であっても一人一人の学生に注意を向けて、理解の仕方をチェックしながら講義を進めていくということである。そのため、大教室の授業でも、毎時間、内容を説明したあと、その理解を深める練習問題を与え、学生が作業しているあいだ、教室の中を歩き回って質問を受け付けている。また、日本人の学生は教室内で黙っている傾向があるが、それでは社会に出たときに困るので、いつでも手を挙げて質問するように、頻繁に促している。そのお陰で、大教室でも勇気を持って質問をする学生が何人も出てきている。大教室では、出席を取る方法として、ほとんど毎回、授業の最後に内容確認の小さな練習問題を提出させている。評価方法としては、定期試験での一発勝負をやめ、どの科目も、一学期のあいだに2回ないし3回の小テストを行っている。採点したテストはできるだけ翌週に返却するようにし、理解の不十分な学生には追加の課題や自主的な補充勉強を促している。
2 作成した教科書、教材、参考書	2000年4月～ 2005年7月	大人数の講義であっても少人数の演習であっても、専門科目であるので、主として、自分が執筆した教科書あるいは研究書を教材に用いている。2003年には、過去数年の授業経験の蓄積を英語学の入門書として出版し、国内の多くの大学でも好評を得ている。また、適当な単行本がない場合は、種々の文献から必要箇所を抜粋した教材を独自に作り、勉強の内容が初歩的なものから専門的なものへと段階的に進むように工夫している。授業内容（言語学・英語学）の性質上、必要な材料は必ずプリントにして（つまり、文字として残る形で）配布するようにしている。プロジェクターやスライドは、その場限りで、学生の手元に残らないから、意識的に使用を避けている。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等	2003年	この項目に該当しないかも知れませんが、高校生対象の模擬授業を行った。
4 その他教育活動上特記すべき 事項	2000年4月～ 2005年7月	南山大学、神戸大学、東北大学、静岡大学など他大学・大学院で、自分が作成した教科書を用いて集中講義を行った。

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 鎌田道生	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p><b>1 教育内容・方法の工夫</b> (授業評価等を含む)</p> <p>最初の授業の際に概要をプリントにして提出し、説明をおこなった。 なおビデオ、CDレコード、OHCなどの機器を用いて理解を深める工夫をした。</p>	2000年度～ 2004年度および2005年度春学期	最初の授業の際に、授業の前提となる学生の知識量について簡単なアンケートをおこない、それを参考に演習や講義内容に対応させた。また中間点でアンケートをおこない学生の理解度を調べた。そして最後の授業の際に授業に関する感想を記入してもらい、以後の参考にした。
<p><b>2 作成した教科書、教材、参考書</b></p> <p>教材は常に自分で作成したプリントを用いた。そして授業のテーマに関する文献を紹介した。</p>	同上	
<p><b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b></p> <p>日本独文学会阪神支部長としてドイツ語教育の活動を支援してきた。</p>	2000年4月～2004年3月まで。	具体的には「阪神ドイツ文学会」（日本独文学会阪神支部）の機関誌「ドイツ文学論叢」の研究会、講演会の記録を参照。ドイツ語教育についてのシンポジウム、外国人学者の招待講演などの開催が挙げられる。
<p><b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b></p>		

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 専任講師	氏名 北村昌幸	大学院の授業担当の有無（無）
-----------	------------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>① 授業各回の完結性 (日本文学特殊講義)</p> <p>② 小課題の提出 (古典語Ⅰ)</p>	<p>2005年4月～</p> <p>同上</p>	<p>① 三回生および四回生を対象とした講義においては、教職科目履修（介護体験や教育実習）のため、やむを得ず欠席する学生が多く見られる。そうした学生であっても支障なく受講できるよう、一回ごとに独立した（自己完結的な）授業内容を準備した。それら小テーマの集積を通じて、最終的には大きなテーマを浮かび上がらせる講義計画を実践している。</p> <p>② 毎回授業終了時にその日の学習内容に関する問題を提示し、出席者全員に100字程度の回答を書かせている。興味深い回答があれば、翌週紹介する場合もある。この課題によって、受講生の基礎学力や習熟度合いを測るべく心がけている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>自己作成したレジュメ (B4サイズ、全13枚)</p>	<p>同上</p>	<p>上記の日本文学特殊講義において、毎週一枚ずつ消化するプリント。具体的には、文学作品や歴史資料から問題となる箇所を抽出して列挙したものである。一見しただけでは講義の趣旨がわからないようになっており、きちんと授業を聞いたうえで理解していこう、という学生のモチベーションが低下しないように配慮している。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>特記事項なし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>特記事項なし</p>		

## 教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	木野光司	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p><b>1 教育内容・方法の工夫</b> (授業評価等を含む)</p> <p>学部改組後の文学部1年生向け共通科目「ドイツ学入門」において、従来の学問の枠を越えた「地域情報」を包括的に伝える試みをおこなった。</p> <p>その他「ドイツ文学史」、「ドイツ文学概論」でも同様の試みをおこなっている。</p> <p>大学院向け「ドイツ文学史特殊講義」では、自ら開発した読解法を教授している。</p>	<p>2002年4月 ～2003年2月、2003年4月～7月 および 2004年4月～7月、 2005年4月～2006年1月</p>	<p>新入生がドイツ語圏の歴史・地理・文化・社会に関して持っている知識をアンケートによって調査し、その不足する知識項目を続く13回の講義によって伝えることを試みた。歴史・地理・現代社会のみにとどまらず、各国の有名産品、ブランド、モード、芸術などについても紹介した。毎回のテーマに拘わる手作りの資料を配付する際に出席管理もおこなうことで多人数講義でありながら各人の出席を把握し、講義の中で適宜学生に質問に答えさせることで学生の緊張感と関心を引きつけることを試みた。資料としては、毎回PCで作成したハンドアウトを配り、それにOHCを用いた画像、ビデオ教材、CD教材を加えた。80名から100名の受講生を抱えていたが、最終回に求めた授業評価においてはおおむね好評を得た。</p>
<p><b>2 作成した教科書、教材、参考書</b></p> <p>*手作りの教材：「ドイツ文学史」、「ドイツ学入門」、「ドイツ文学概論」</p>	<p>2002年4月 ～2003年2月、2003年4月～7月・2004年4月～7月、 2005年4月～7月</p>	<p>「ドイツ文学史」では「ドイツ文学案内」(岩波文庫)を参考書とする一方、最新の情報を毎回PCで作成した教材を配布することによって講義をおこなった。</p> <p>「ドイツ学入門」についても上に述べたように、既存の教科書には存在しない内容の教材を自作した。</p> <p>「ドイツ文学概論」でも文学に関する知識が乏しい現今の学生向けに社会・時代とを絡めた文学の理論、流れの説明を自作の教材を作りながら試行している。</p>
<p><b>3 教育方法・教育実践に関する</b> 発表、講演等</p>		
<p><b>4 その他教育活動上特記すべき</b> 事項</p>		

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 倉賀野安英	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	-------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p><b>1 教育内容・方法の工夫</b> (授業評価等を含む)</p> <p>(1) 「ドイツ文学演習」における「読み」の実践</p> <p>(2) 「ドイツ文学概論」における文化史や社会史の知識の拡充</p> <p>(3) 「人文演習」における基本的リテラシーの習得</p>	<p>2000年4月～</p> <p>2005年3月</p> <p>2001年4月～</p> <p>2003年3月</p> <p>2003年4月～</p> <p>2005年3月</p>	<p>(1) 文学演習の初年度はいつも、ドイツ文学への入門として春・秋各学期のはじめにドイツ詩の紹介をとおして、ドイツ人の季節感など民俗誌の知識を提供する。(岩波 CD ブックス「ドイツ名詩選」、CD「春の歌曲」等の音声資料も使用)</p> <p>(2) ドイツ文学の特徴をわかりやすくするため、いくつかのトピックを中心に講義をすすめた。(例：民族意識の昂揚、ラインに沿って、放浪の文学、共同体と文学、ゲルマン vs ラテン)</p> <p>(3) 「人文演習Ⅰ」では、共通のテキストを素材に、口頭発表とそれを文書にして提出させ、レジュメ作成とレポート作成の方法を学ぶ。「人文演習Ⅱ」では、「ことば」をテーマに個別発表と質疑応答の要領を学び、あわせて書評の実践を試みた。</p>
<p><b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> 自己作成の教材・資料集</p>	<p>2003年10月～</p> <p>2004年9月</p>	<p>「ドイツ文学資料研究」：「メルジーネからウンディーネまで」を標題に、ドイツ文学における「水の精」の系譜に関するテキストと図像を抜粋。</p> <p>「ドイツ文献講読」：聖書や神話にはじまり、「泉」の有する象徴的な意味を、代表的なエピソードから収集し、モチーフ研究の実例とした。</p>
<p><b>3 教育方法・教育実践に関する</b> 発表、講演等</p>		
<p><b>4 その他教育活動上特記すべき</b> 事項</p>		

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 杉山寿美子	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	-------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫</p> <p>アンケート</p> <p>視覚教材</p> <p>授業評価</p>	<p>2000年4月～ 2004年3月</p>	<p>授業の最後に授業の要約、コメント、質問を提出させ、学生の理解度をつかむよう努めた。</p> <p>図・写真のプリント、ビデオなどの視覚教材を用意し、学生の理解の助けとした。</p> <p>学期の終わりに、学生による授業評価を行い、授業内容・方法の改善に努めた。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>『アベイ・シアター1904ー 2004ーイルランドン劇運動』</p>	<p>2005年4月～</p>	<p>アイルランド演劇運動の歴史を著わした書であるが、運動の歴史だけでなく、アイルランド文学史、社会・文化史の教科書・教材として用いた。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 曾我祐典	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<b>1 教育内容・方法の工夫</b> （授業評価等を含む）  1. 学生の積極的な授業参加のための「質問に立脚する方式」の実施.  2. 予習を促す方策.  3. 授業外の学習指導.	2000年～現在   2000年～現在   2003年～現在	1・2年生用の授業（「フランス語」、「フランス語学概論」など）で、学生が学習主体として授業に積極的に参加するよう「予習して疑問をいなく > 質問 > 質問をめぐる授業」という連鎖を作り、学生に教科書の指定された章をあらかじめ読んで質問を提出するよう求めている（授業は質問をもとに進め、小テストを行う）.  あらかじめ質問を提出する方式の採用により、予習を促している。また、3・4年生用の授業では、毎回の授業の後に以降の授業計画を伝えることにより、学生側が自主的に予習をするよう促している。  教室では時間的制約もあり質問をためらう学生も少なからずいる。おもに演習の学生と「フランス研究会」の学生のために、原則として週3回の昼休みに学習に関する相談に応じる機会を設けている。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> [教科書]  1. 『フランス語初級一文のかたち（第二版）』（第三書房）.  2. 『ことばのしくみ フランス語（三訂版）』（白水社）.  [教材]  授業の性格に応じたレジュメおよび各種の作業・練習用プリント。  [参考書]  1. 『コレクション フランス語 3 文法（改訂版）』（白水社、共著）.  2. 『コレクション フランス語 4 話す（改訂版）』（白水社、共著）.	2001年5月20日   2004年3月10日   2000年5月20日   2002年12月25日	認知言語学の立場から概念レベルにおける事態の構造と言語レベルにおける表現形式の構造の対応関係が捉えられるよう配慮した大学用教科書。  狭義の文法構造だけでなく、フランス語で円滑なコミュニケーションをするために必要な社会・文化的要素も視野に収めた大学用教科書。  授業の進展に即して適宜作成している。あらかじめ添付ファイルの形で配布しておくこともある。  フランス語文法の体系的な理解だけでなく、動詞の活用形・形容詞の性数による変化形など形態の習得も重視する独習書。  第二言語習得研究にいう「アウトプット仮説」と「タスク中心指導法」にもとづいて、積極的な学習を促すよう構想した独習書。
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>  [論文]  1. "Pour une meilleure didactique des verbes cognitifs en construction pronominale", 『フランス語教育』31, 日本フランス語教育学会, pp. 51-60.	2003年5月25日	日本の学習者にとって習得が非常に困難な文法項目とされてきた「代名動詞」の新しい教授法を認知言語学の立場から提案する論考。<代名詞 se+動詞> という構造がどのような概念構造・発話意図に対応するものであるかを明らかにし、フランス語話者と同じ感覚を發動して適切に使えるようにする教授法への道を示した。



<p>2. "Les composantes socioculturelles de la communication en français"</p> <p>『人文論究』54-1, pp. 62-74.</p> <p>[口頭発表]</p> <p>1. 「douter は『うたがう』か?」, 2002年10月25日 日本フランス語教育学会シンポジウム (於 九州大学).</p> <p>2. 「動詞の教え方」, 2003.03.27 関西フランス語教育研究会 (於 大阪日仏センター=アリアンス・フランス).</p> <p>3. 「フランス語のしくみの教え方」, 2005.03.30 関西フランス語教育研究会 (於 大阪日仏センター=アリアンス・フランス).</p> <p>[記事]</p> <p>1. 「フランス語表現のしくみ」, 『ふらんす』2000年4月号-2001年3月号 (白水社)</p> <p>2. 「各国語学習情報・フランス語」, 『言語』2001年5月号 (大修館).</p> <p>3. 「フランス語 (文法) の授業」, 『こんな授業をしていますー関学における事例集』, 総合教育研究室, pp. 45-47.</p>	<p>2004.05.10</p> <p>2002年10月25日</p> <p>2003.03.27</p> <p>2005.03.30</p> <p>2000年4月～2001年8月</p> <p>2001年4月</p> <p>2001年4月</p>	<p>円滑にコミュニケーションを行うためには、狭義の言語能力に加えて社会文化的要素をよく理解していることが不可欠だが、日本の大学におけるフランス語教育はこの面について配慮が必ずしも十分ではない。授業のデザイン・教材作成などに際して考慮すべき要素を示した論考。</p> <p>「フランス語教師は『主観性』をきちんと教えてきたか」をテーマとするシンポジウムのパネリストとして、伝えようとする事態を話者がどのように評価しているかに応じて表現形式が選ばれるメカニズムを論じ、新しい教授法を提案した。</p> <p>「話者の主観性」の観点から主要な認知動詞・伝達動詞の機能を捉えなおし、フランス語話者がどのような感覚にしたがって動詞叙法の選択や &lt;代名詞 se+動詞&gt; の構成を行うかを明らかにして、教授法の改善策を示した。</p> <p>初級の段階から認知的・感覚的アプローチを重視する考え方、フランス語のしくみについて学習者が抱く疑問と教室での扱い方など、1・2年生の授業をいかにデザインすべきかを論じた。</p> <p>フランス語の学習者と教員のために、表現感覚を養う文法学習の具体例を連載記事の形で示した。</p> <p>学習者が必要と興味に応じてフランス語学習を行っていくために役立つ文献とホームページを紹介した。</p> <p>学生が発話構成のしくみを理解して適切な表現形式を選ぶ感覚を身につけることをめざす「フランス語 (文法)」の授業の実践報告。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>[学内]</p> <p>1. フランス語コンクール, フランス語暗唱大会などの企画・運営</p> <p>2. 各種のフランス語弁論大会・暗唱大会に出場する学生の指導</p> <p>3. 高校生スケッチ暗唱大会の運営</p> <p>[学外]</p> <p>1. フランス語教員の研修会講師</p> <p>2. 日本フランス語教育学会の活動支援</p>	<p>2000年～現在</p> <p>2000年～現在</p> <p>2003年～現在</p> <p>2000年～現在</p> <p>2000年～現在</p>	<p>おもにフランス文学科 (フランス文学フランス語学専修) の学生が参加し、フランス語運用能力が向上する活動を支援している。</p> <p>さまざまな教育・研究機関が行うフランス語能力を審査する大会に出場する学生の指導を行い、優勝・上位入賞に寄与している。</p> <p>フランス文学フランス語学専修が大阪日仏センター=アリアンス・フランスとの共催 (フランス大使館後援) で行っている関西の高校生むけの活動。</p> <p>フランス大使館後援で開催される「フランス語教授法セミナー」, 「関西フランス語教育研究会」, 「獨協大学フランス語教授法研究会」などの研修会の講師やシンポジウムのパネリストを務めている。</p> <p>フランス語教育改善のための諸事業の企画, シンポジウムのパネリストなど。学会誌『フランス語教育』に関しては、投稿論文の審査、依頼により論文・書評の執筆などを行っている。</p>

3. 日本フランス語フランス文学会編集委員	2001年～現在	フランス語学のほかフランス語教授法部門についても学会における口頭発表・学会誌投稿論文の審査を担当し、フランス語教員の質的向上に努めている。
4. 大阪日仏センター=アリアンス・フランスーズ <sup>®</sup> 理事	2000年～現在	フランス政府の支援を受けて、関西におけるフランス文化・フランス語教育の重要拠点となっているセンター=アリアンスの教育をさらに充実させるよう文化活動・教育活動に関する助言を行っている。また、弁論大会・暗唱大会などの企画・運営を援助している。
5. フランス語弁論大会・暗唱大会の審査員	2000年～現在	「フランス語圏フェスティバル 弁論大会」(フランス語圏諸国共催)ほか毎年開催される数種類の大会における審査を担当。

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 助教授	氏名 高木和子	大学院の授業担当の 有無（無）
-----------	-----------	------------	--------------------

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 田中 実	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>いわゆる「講読」もののクラスにおける英米文学の作品を単に講読するのではない、そこに見られる構文、表現、語彙などにも注意を払う、「自分が書くつもりで読む」講読法の実践。</p>	<p>2000年4月～ 2001年3月 2001年4月～ 2002年3月</p>	<p>学生にパラグラフ毎に英語を読んでもらい、日本語に訳してもらった後、構文、表現、語彙などを取り上げて文法・語法の観点から説明を行い、英米文学作品の中身とともに、その中身を形成する「外見」すなわち上記の構文、表現、語彙などを習得させることを目指し、学生には「講読」の授業ではあるが、「読む」力と同時に「書く」力をつけてもらうことが可能になり、成果を得ている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 『通じる英語 言いまわし練習帳』 (幻冬舎)</p>	<p>2004年3月</p>	<p>一般の人々を主に対象にした文庫本ではあるが、学生への参考書としても意図された著書で、実際の場面を想定して、よく似た二つの表現のニュアンスの違いを説明し、関連事項を取り上げて解説を施したものの。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等 岡本カンパニー加古川校講演会 「英語を学ぶということ」</p>	<p>2005年5月</p>	<p>対象を大学生、高校生、その父母など幅広く想定した話の内容からなる講演。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

## 教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	東浦弘樹	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほとんど全ての授業で何らかの形でアンケートを実施している。</li> <li>・ 「フランス文学概論」「フランス文学史」「フランス学入門」など講義形式の授業、および「人文演習」では、毎回授業の最後に紙を配り、その日の授業で思ったこと、感じたことを学生に書かせている。回収したものからいくつかを選び、次の授業の最初に、紹介し、コメントをつけている。</li> <li>・ 「研究演習」では各学期、口頭発表1～2回と、2000字程度のレポートを3～4本課している。提出されたレポートは赤でコメントを書き加え、返却している。</li> <li>・ 「人文演習」では、グループでの口頭発表と4000字のレポートを課している。提出されたレポートは赤でコメントを書き加え、返却している。</li> <li>・ 語学の授業ではできるだけ頻繁に小テストを課している。また、フランス語の表現力を高める授業では、できるだけ頻繁にフランス語で自由に記述するタイプの課題を課すようにしている。提出された課題は赤でコメントを書き加え、返却している。</li> </ul>
2 作成した教科書、教材、参考書		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「フランス文学概論」「フランス文学史」「フランス学入門」などの授業では、既成の教科書（参考文献）以外に、自分で作ったレジュメを配っている。</li> <li>・ フランス語の参考書『コレクション・フランス語4、話す』（白水社、初版1991年）を中川努、曾我祐典らと執筆した。</li> </ul>
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		特になし
4 その他教育活動上特記すべき 事項		2000年4月から2002年3月まで、言語教育センターフランス語教務委員を勤めると同時に、週一回フランス語インテンシブの授業を担当した。

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 中谷拓士	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>学生との距離をできるだけ近くするようにしている。そのため、40名くらいまでであれば、1～2週間ですべての学生の名前と顔を覚え込む。そうしておいて、あとはできる範囲で対話方式をとり、講義をしつつ、しばしば何人かの学生に質問し、理解度を確認しながら授業を進めている。</p>	2000-2004	<p>教材提示装置、スライド、CD等々、視覚、聴覚に訴えるものを多用。あとは数多くのプリントを作成し、配布して理解を促す。プリントはよそからのコピーの貼り付けでなく、自前で作成するのを原則にしている。そのためネットはとうぜん参考にするが、図版などについてはスキャナ、デジカメ等を利用して、各授業単独の教材をつくる。教材用のスライド（絵画・建築・都市等）は1000数百枚、絵葉書の類いも1000枚超、その他種々の小冊子類を常備している。講義科目の種類にもよるが、平均的に言うと、A3の用紙のプリントを、授業の2回に1枚の割合で配布する。（演習科目の場合、プリントの枚数はもっと多い。）</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項		

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 助教授	氏名 新関芳生	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	-----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>「英米文学研究法」および「アメリカ文学特殊講義」において、書き込みが容易な配付資料を作成し、板書の時間を短縮するようにつとめ、その分、詳細な説明時間を増大させるよう心がけた。また映像資料を積極的に用いることで、視覚的な側面からの理解を促進するよう心がけた。授業に関する意見、質問は、常時 email 等で受け付け、授業に取り入れた。</p>	<p>2003年4月～</p> <p>2005年3月</p>	<p>(1)授業中に配布した資料に関する説明は、2を参照されたい。</p> <p>(2)映像資料に関して：講義内容の関係上、文学作品を取りあげる比率が圧倒的に高く、文字情報の理解を促す割合が非常に高いのだが、プロット、人物描写の理解のため、あるいは、小説内に描写されている服装、髪形、物品、風俗、文化などの理解を容易にするため、映画化されている文学作品についてはこれを積極的に授業で用いた。また、小説中で言及される絵画や彫刻などに関しては、画集や美術全集をスクリーンに投影し、必ずどのような作品であるのかを視覚的に確認するよう心がけた。</p> <p>(3)新聞や雑誌記事を使うのはもちろんのこと、説明項目をパロディーにしている漫画なども取り入れることにより、難解な思想概念の説明についても学生の注意を引きつけるよう努力した。</p> <p>(4)常に担当教員の email アドレスは公開しており、授業に対する疑問、批判、意見などを受け入れ、個人的に回答するだけではなく、授業でも必ずこれらを公開し、回答するよう心がけた。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>毎時間配布した自己作成の配付資料</p>	<p>同上</p>	<p>単に資料的な説明を羅列するのではなく、板書すべき項目を盛り込むことで、授業中の板書の時間をほぼ削減することに成功した。また、適度な空白箇所を設けることで、自分でその空白を授業を聞きながら埋めるよう学生に促し、いわゆる「ワークブック」的な要素も持たせた。毎回の授業にきちんと出席して空白を埋めていけば、最終回の際にはきちんとしたノートが自ずから作成されていることとなり、おおむね受講生には好評であった。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>特になし</p>	<p>同上</p>	
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>2004年4月より言語教育研究センター英語コーディネーターを、2005年4月より教務部教務副部長を兼任</p>	<p>同上</p>	<p>(1)英語コーディネーターに就くことで、全学の英語教育に関するカリキュラム編成や講師手配、海外研修の計画立案、引率などに関わり、本学の英語教育の改善と効率化に貢献した。</p> <p>(2)教務副部長として、エクステンションプログラムや生涯教育の諸制度の整備、教養教育の見直し等、大学全体のカリキュラムの見直し、改善に関わっている。</p>

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 西谷俊昭	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2004年4月 ～2005年3月	演習所属学生に対して論文指導の一環として「発想から記述まで」(参考文献解題を含む)と題する参考資料を作成配布、数個のテーマを展開・記述する具体例を添え、研究活動を支援している。
	2004年4月 ～2005年3月	「諺と形像」(言語表現と図像表現)のテーマの元に、内外の文献より、諺を図像で表現したものを収集(約100葉)、「文化により形像認識が異なること」を具体的に理解させ、新たなる学生独自の研究テーマを醸成するため作成・配布した。
	2004年4月 ～2005年3月	認知言語学の観点から「文法の視覚表現化」をテーマにA4版約50枚の研究資料を作成配布し、学生の指導・教育に供している。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項		



## 教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	専任講師	博多かおる	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p><b>1 教育内容・方法の工夫</b> (授業評価等を含む)</p> <p>フランス語読解・作文の授業では、毎回物を毎回添削・返却。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有効と考えられる場合は、授業準備のためにメール通信を活用。</li> <li>・フランス語会話の授業では、ビデオカメラの利用。</li> <li>・ビデオやLD, DVD、及び自ら作成したパワーポイント等による資料の映写。</li> <li>・きめ細かい評価方法の模索</li> <li>・アンケートの実施。</li> </ul>	<p>2003年度から2005年度 春学期まで</p> <p>2004年度</p> <p>2003年度から2005年度 春学期まで</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランス語読解に関する授業では、授業が単調にならないよう、また読み流すだけでなくフランス語表現が身につくよう、テキストの内容や出てきた重要表現についての質問を学生に出してもらい、他の学生全員がフランス語で答え、授業の最後にそれを提出してもらった。毎回添削して、授業中、コメントしながら返却した。</li> <li>・フランス語会話の授業では、自ら表現を思いつく力を高めるため、皆で相談して考えたシチュエーションについて学生が授業及び自宅でシナリオを作り、メールでそれを教師に送った。教師はそれを添削し、学生にメール返信し、学生たちは練習して来たそれぞれのシナリオを授業中、他の学生の前で演じた。</li> <li>また、学生のモチベーションを向上させるため、必要に応じてシナリオをフランス語で演じている場面をビデオ撮影し、皆で見直して、発音矯正などを行った。</li> <li>・2004年度の授業では、フランス語会話の感覚を臨場感をもって理解してもらうため、映画のシナリオを全編演じ、ビデオ記録として残した。これをもとに自らのフランス語の直すべき点を学生各自が考え、教師も指摘するというものを行った。</li> <li>・フランス文学についての授業では、授業で取り扱った作品に学生が親しみやすいよう、その作家や作品の舞台、時代背景等に関する映像資料、教師自ら作成した画像付きパワーポイント資料、演劇作品に関しては舞台映像などを併用した。</li> <li>・各学生の特性を知り、対話が深まるよう、定期試験ではなく、日常の提出物（作文、レポート、等）を増やした。</li> <li>・「フランス異文化理解」のように人数の多い授業では、教室で個人の反応をつかみにくいため、毎回、アンケートや感想を提出してもらい、反応を見ながら授業を進めた。</li> </ul>
<p><b>2 作成した教科書、教材、参考書</b></p> <p>自己作成した配布資料</p> <p>学生と共に作成したフランス語学習のためのシナリオの配布</p>	<p>2003年度から2005年度 春学期まで</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フランス作家論」の授業については、複数の作品を扱うわけだが、フランス語版を学生に毎回購入させることが不可能であり、現在、フランス文学主要作品でも日本語で絶版になっている作品が多いため、取り扱う作品の重要箇所をフランス語文と、必要に応じて日本語訳、作家についての資料、関連する当時の社会についての資料などを合わせた独自の教材を作成・配布した。</li> <li>・「フランス語書く・聞く話す」等の授業では、メールで学生から送られてきた宿題を整理し、印刷して学習資料とし、授業で配布した。</li> </ul>
<p><b>3 教育方法・教育実践に関する</b></p> <p>発表、講演等</p>		
<p><b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b></p> <p>阪神シニアカレッジにて、</p> <p>19世紀フランス文学について講演</p> <p>大阪フランコフォニー祭において、</p> <p>フランス語圏の文化に関するピアノ演奏つき講演（主催：フランス総領事館、</p> <p>大阪日仏センター、毎日放送等</p> <p>於 梅田スカイビルディング）</p>	<p>2004年10月</p> <p>2005年3月</p>	

# 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 助教授	氏名 橋本安央	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	-----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<b>1 教育内容・方法の工夫</b> (授業評価等を含む) 「アメリカ文学史 A・B」における工夫	2002年4月～ 2003年3月 および 2004年4月～ 2005年3月	17世紀から現代にいたるアメリカ文学の歴史を講じる際、遠い文化と時代のことであると受講生が思わないよう、ことあるごとに現代日本と比較をし、類似点、相違点など、具体的な例を挙げながら講義するよう心がけている。また、通史的な授業であるため、毎回講義のはじめに前回の授業の総括と復習をした上で、時代のつながりを意識しながら新しい主題を講義するようにしている。受講生が200名以上いる比較的大規模な授業であり、一方通行では学生の集中力が持続しにくいいため、講義で取り上げる文学作品の一部を抜き出しプリントとして配布した上で、実際に原文で読ませる作業にも力を入れている。板書は学生が主体的に授業にコミットしやすいように、丁寧すぎず、簡略すぎず、大きな文字で書くよう心がけている。授業アンケートはときおり書面でおこなっており、声の大きさ、授業のスピード、難易度、興味度などを数値化して記入してもらい、授業運営上の参考にしている。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> 参考書として、一般の読者にも有用である『アメリカン・カルチュラル・スタディーズ』（萌書房）を訳出、出版。	2002年2月	「英米文学演習」や「アメリカ文学史 A・B」などにおいて、「伝統的な」文学史的読みではなく、最新の多文化主義的視点からアメリカ文学・文化を見つめる学習の補助教材としている。
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>		
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> 教務担当委員	2003年4月～ 2005年3月	文学部文学言語学科英米文学英語学専修において、教務を担当。カリキュラム上クラス編成上の細かな問題点に対応し、時間割を作成したことに加え、2年次の会話、作文の専門科目については TOEFL スコアに基づく到達度別のクラス編成をした。また、学部における新カリキュラム導入後、現実に運用する際の細かい修正をおこなった。

## 教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	花岡 秀	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>「英米文学概論」：取り上げる作品のテキストへの詳細な言及</p> <p>「英米文学演習」：多角的な資料の提示</p>	<p>2004年4月 ～2005年3月</p>	<p>「英米文学概論」： 講義科目である上記の授業において、単なる講義に終始することなく、できる限り言及する作品のテキストを資料として配布し、そのテキストの具体的な分析を試みた。</p> <p>「英米文学演習」： 演習のテーマが、東部や西海岸と比較して学生の現実的な距離感が希薄なアメリカ南部文学であるため、できる限り写真や図版、その他視覚的な資料をもとにした南部文学へのイントロダクションを実施している。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>参考書：『スモールタウン・アメリカ』（東京：英宝社、2003年8月）、（共著）</p>	<p>2003年8月</p>	<p>アメリカン・スモールタウンの典型としては、一般的には中西部スモールタウンが取り上げられるが、南部スモールタウンもその条件を十分に満たすことを説いたうえで、南部スモールタウンが現在もなおアメリカン・スモールタウンとして認知されないところに、南部の置かれた複雑な状況があり、そこに南部文学が抱えたさまざまな問題を読み取ることができる。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		<p>特になし。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p>		<p>特になし。</p>

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 馬場美奈子	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	-------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>理解を助ける工夫</p>	<p>2003年4月～ 2004年3月</p> <p>2004年4月～ 2005年3月</p> <p>2005年4月か らも継続中</p>	<p>多人数履習の授業において、ひとつの項目あるいはテーマが終る毎に（例えばひとつの文学作品についての講義が終る毎に）、質問やコメントを提出させている。次の回に、質問を紹介しそれに答えることで、授業内容を思い出させかつ補足し、理解を深めてもらうようにしている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>特殊講義クラス用に自己作成した教材（プリント）</p>	<p>2003年4月～ 2004年3月</p> <p>2004年4月～ 2005年3月</p> <p>2005年4月～</p>	<p>アメリカ女性作家（19世紀から20世紀）を6名選び、代表作の要所などを抜粋、タイプ</p> <p>20世紀女性作家を5名選び、代表作の要所などを抜粋してタイプ</p> <p>エスニック・アメリカン作家を4名選び、その特徴や代表作の要所の抜粋をタイプ</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 Olivier Birmann	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	-----------------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>文法と表現感覚の養成に重点をおき、学生ひとりひとりが自分で言葉の仕組みについて考えることをうながす授業を行っている。また、フランスの文化や社会にも様々な形で触れるよう努めている。</p>	<p>1996年4月～ 現在</p>	<p>コミュニケーションの中でこそ文法学習が生きてくるということを理解してもらえようという授業をしている。言語（フランス語）を中心にした授業でもフランス文化・社会に接する機会をできるだけ多く設けている。特に文学と芸術をソフトな形で取り上げることが多い。学生が皆の前でフランス語で発表したり、話したりするように授業を進めている。</p> <p>言葉（発音、文法など）の問題だけではなく、発言の「内容」（問題意識、考え方、伝達の仕方など）にも触れることが多い。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>1)『フランス語全方位』（早美出版） 2)『フランス語これでOK』（白水社） 3)『ディアログ』（第三書房） 4)『フランス語で絵画を読む』（青山社）他</p>	<p>1991年1月 1993年3月 1997年3月 2004年7月</p>	<p>1) 2) 3) 文法と語彙の感覚を養成すること、特にあることを伝えようとするときにどんな文法的手段をとるかということに重点をおいて作った教科書である。</p> <p>4) 読む力を高めるとともに、絵画を通してフランスの文化に接することをめざす教科書。</p> <p>現在書く力と読む力を高めるためのフランス語教科書を作っている。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>関西フランス語教育研究会に毎年参加</p>	<p>1991年3月 1992年3月 2002年3月</p>	<p>大学用教科書における「語彙と文法」について発表</p> <p>「日本の大学における第二外国語の問題」というシンポジウムに参加</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズ講座／茨木市立生涯学習センター講座の担当／神戸日仏協会理事／本学言語教育研究センターの副長をつとめている</p>	<p>1989年4月～現在 2005年5月～現在 1998年～現在 1998年～現在</p>	<p>大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズにおいて、講座「フランス文学」、講座「仏訳講座」を担当／茨木市立生涯学習センターにおいて、市民講座「フランス語中級」を担当／毎年本学で行われている「フランス週間」（講演会、映画、暗誦大会等）の企画に参加／講演会の企画／本学言語教育研究センター主催のフランス語インテンシブの授業を担当／フランス語海外研修を担当している。</p>

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 福岡忠雄	大学院の授業担当の有無（有）
-----------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価を含む)</p> <p>授業内容が多岐にわたるため、その内容・受講者数を常に考慮したうえで、最も有効な広義を心がけている。ゼミと大学院の授業を除いて、すべての授業で毎回小テストを実施、単位の認定は、小テストの総合点と期末試験の点数を加味して算出している。</p>	<p>2000年4月～ 2004年3月</p>	<p>1年生を中心とする「英語」では、英語読解力の涵養のみならず、自分で考える力を育てるために Time や Newsweek の最新号掲載の文化的・一般的トピックス(例えば「精神と身体の一体性」、「グローバル化する英語」など)をコピーし、身近な話題を自分との関連で考えさせている。</p> <p>あるいは「英文学史」の授業では、年表や人物名の羅列に終始することを避け、それぞれの作家のテキストの断片をプリント、原作を味わいながら文学史をフォローする方法を取っている。</p> <p>大学院の授業では、最近の若い研究者が裂けて通れない「現代批評理論」を紹介、彼らの論文作成の手がかりとなるようにしている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>授業中のテキストは市販の既製品を使わず、すべてこちらでコピーしたものをプリントして渡している。</p>	<p>2000年4月～ 2004年3月</p>	<p>すべてプリントを使うのは、有名な小説の場合など、すでに翻訳が市販されている場合があり、学生が安易にそれに頼るのを避けるためであり、作品名、作者名を隠して読ませることにしている。また、Time や Newsweek は記事の「鮮度」が大事で、1、2年前の記事を読む味気なさを避けるため、その週に届いたものを即使うことにしている。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>(特になし)</p>		
<p>4 その他教育上特記すべき事項</p>	<p>2000年4月～ 2004年3月</p>	<p>過去数度にわたって、現役高校生を対象とした「模擬講義」を行い、大学レベルの授業を実感させることに努力。</p>

# 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 教授	氏名 細川正義	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>○授業における工夫</p> <p>○合宿研修への取り組み</p> <p>○課外活動への理解と支援</p> <p>○授業評価への取り組み</p>		<p>授業は、常に学生に正しい知識を伝え、興味を喚起し、自ら積極的に取り組む意欲を高めることを主眼として、取り組んできた。 特別に紹介する「工夫」はないが、毎時間プリントの作成配布を行い、一学期の授業期間中で、一科目につき 20～40 枚のプリントを配布してきた。</p> <p>私は3年生、4年生のゼミでは必ず、それぞれ年間2回の合宿を行っている。3年生のゼミでは、夏休みに入ってから第一回の合宿旅行を行うが、それまであまり親しんでいなかったゼミ生たちが、合宿を契機に非常に親しくなり、ゼミ仲間としての交わりや、授業での遠慮のない討論などに顕著に影響が出ている。それを考えても、合宿での交わりは欠かせない物と考えている。合宿では、数名の研究発表と討議、懇親会、文学散歩などを取り入れ、すべて学生の合宿委員に運営させるようにして、その行事の運営を通していろいろなことを学んでもらうように工夫している。</p> <p>私は現在、体育会ヨット部部长、文化総部書道部、文芸部の顧問、同好会上ヶ原エコークラブ顧問をしている。 かつて学生部長として4年間任についていた経験もあるが、学生たちのキャンパスライフに於いて課外活動は不可欠の要素である。 学生たちの課外活動には理解を示し、積極的に支援することは良き教育を実践する上で重要である。ゼミの学生たちとの面談や日常での会話に於いても、学生たちの課外活動の状況や、意見などを出来るだけ聞くように心がけている。 良き授業は、学生とのコミュニケーションであり、学生のキャンパスライフへの関心と理解にも深い関わりがあると考えている。できるだけ、その理解を学業に生かせるようにとも考えている。</p> <p>学生による授業評価については大学教務部で一斉に行っている物以外は特に、アンケート等では実施していない。しかし授業等では、学生の意見や希望を積極的に聞くように呼びかけている。学生に理解される、関心を高めていける授業を目指して、積極的に学生の意見や要望を受け入れていかなければならないと考えている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>『現代の日本文学—二葉亭から大江まで—』(共著)</p> <p>『近代の文芸』(共著)</p> <p>『キリスト教文学を学ぶ人のために』(共著)</p>	<p>明治書院 (初版は1988年だが毎年再発行している)</p> <p>和泉書院 1990 初版、毎年重版</p> <p>世界思想社 (2002年9月)</p>	<p>本書は、二葉亭四迷から大江健三郎までの近現代の代表作家について、本文を示し、注解、解説、考察のポイントなどを示したものである。私は川端康成を担当し、「山の音」の分析と解説を行った。 2005年には経済学部の「日本文学」のテキストとして使用した。 2006年度は商学部で使用予定。</p> <p>近代現代を代表する作家22名を取り上げ、それぞれの作家の代表作一作品について、作家紹介、作品の評価、解説、参考文献の紹介等を行ったものである。私は森鷗外を担当し、作品は『阿部一族』を取り上げた。</p> <p>日本、世界のキリスト教に関わる文学を56編と、「キリスト教文学を読む」「キリスト教文学を解く」「新しいイエス像を求めて」「キリスト教文学の新視覚」などの論文を収録し、キリスト教文学を教える最良のテキストとなっている。キリスト教主義大学に学ぶ学生たちにキリスト教関連の文学からアプローチさせることは重要であろう。このテキストを用いて、「人文演習」「キリスト教と芸術(文学)」などのテキストとして有効に活用してきた。私は、夏目漱石の『こころ』と、島崎藤村の『新生』について担当した。</p>

<p>学生生活白書『ユニバーサル化時代の私立大学』（共著）</p>	<p>日本私立大学連盟 学生会、開成出版、2000.3</p>	<p>日本私立大学連盟が全国加盟大学学生に対して行ったアンケート調査に基づいて、分析し解説したものである。文部省の「学生の立場に立った大学づくりを目指して」という方針に沿って、学生の現状と大学に対してどのような期待や要望を持っているのか、正課と課外活動に対する認識と期待度について、学生のアルバイト状況や、就職活動への期待と実践について、今後の私立大学のあり方を、検討、協議を重ねて、その結果を分担執筆という形で作成した。私は私立大学連盟学生会副部長として参加し、本著は「課外活動と学生」の箇所を担当した。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>提起「キャンパスマナー・あれこれ」</p> <p>論文「充実したキャンパスライフー 課外活動の役割の役割と期待」</p> <p>座談会「大学間協力の未来」 (司会：八田英二、細川正義、澤木 勝茂、田中一昭、深澤良彰)</p>	<p>「大学時報」257 平成 9.11.20</p> <p>「大学と学生」 文部科学省、439 号、平成 13.7</p> <p>「大学時報」 №288、2003 (日 本私立大学連盟)</p>	<p>望ましいキャンパス風景、タバコの分煙問題について、サークルボックス問題、学内放送や私語などのマナーの問題など教育環境改善についての現状把握と問題定義を行った。</p> <p>平成 12 年の文部省高等教育局から報告された「大学における学生生活の充実方策について」において「学生の立場に立った大学づくりを目指して」が提起されているが、それを受けて、課外活動に対する大学の取り組みのあり方を、日本私立大学連盟の白書『ユニバーサル化時代の私立大学』（2000・3）をもとに考察と提起を行った。</p> <p>少子化時代の危機管理、大学間協力の可能性と実践のために必要な点、特に相互信頼と大学の情報公開等の透明化、学生中心の改革の実践について、留学生受け入れについての大学間協力、個性豊かな大学間競争の展開、等を話し合い提起した。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		



## 教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
文学部	教授	森田雅也	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2003～2004	(1) 総合コース『サイバーキャンパス入門』の講義担当の一員として、情報教育における教材開発を教授した。
		(2) 2002～2004年まで関西学院大学総合教育研究室副室長の一人として、生涯学習、高等教育、情報教育の工夫・開発に携わり、FD調査も含め、授業調査などにも関わった。特にその期間、授業等に教材提供できるデジタル画像として「関西文化」にかかわるものを約3,000点開発し、コンピュータによる講義を実践した。
		(3) 2000～2003まで文学部開講総合コース『総合G』の代表として、200名前後の学生に毎回講義に関する小レポート及びコメントを書かせ、講義内でそれにフィードバックするように努めた。2004年度は『キリスト教と文学』で実践。受講生は400名をこえた。
		(4) 2000～2004年まで100名をこえる受講生の講義には、関西学院大学総合教育研究室の授業評価システムを用いた。
		(5) 2003年度より、個人的に「森田雅也研究室（現在リニューアル中）」というホームページを作成し、授業の補完を目指した。
2 作成した教科書、教材、参考書	2000. 04	『近世文学の展開』森田編、共著。「日本文学史」あるいは「日本近世文学」用テキスト。2004年再版。
	2004. 04	『江戸のミステリー』西鶴研究会編、共著。「日本文学入門」用テキスト。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等	2001. 12	「元禄文学を支えた読者たち 西鶴、近松」、『新・大坂学講座』（第三回）、(産経新聞社/関西2100委員会主催)於ハービス大阪。直接依頼。生涯学習としての教育実践。
	2002. 01	「西鶴に学ぶ人と金」,自然総研主催,於千里阪急ホテル アイヴィーホール。直接依頼。生涯学習としての教育実践。
	2002. 06	「西鶴に学ぶ人間らしい生き方」～知恵・才覚こそ人間の宝なり～,(人権を考える大津市民のつどい),於大津市生涯学習センター大ホール。直接依頼。生涯学習としての教育実践。
	2002. 09	「上方の商人たち～大阪を中心に開花した元禄文化～」(大阪船舶倶楽部) 於日立造船会館。直接依頼。生涯学習としての教育実践。
	2002. 11	「西鶴の描く理想の商人たち」,(阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット),於大阪府立文化情報センター「さいかくホール」。関西学院大学教務課(現生涯学習課)より依頼。生涯学習としての教育実践。
	2003. 11	講演会コーディネーター, シンポジウム司会, 「21世紀の大学と地域の連携」, 関西学院大学総合教育研究室主催シンポジウム(西宮市・西宮市教育委員会・三田市・三田市教育委員会後援)。
4 その他教育活動上特記すべき 事項	2001.4～2001.7	「人はばけもの～『西鶴諸国はなし』を読む～」,於川西市清和台公民館。
	2001.4～2001.7	「向田邦子のスタイル」,(石野泉美氏と共同),於伊丹市ラスタホール。
	2002.4～2003.3	『産経新聞』夕刊金曜日版,「なにわの商人片々録」連載。
	2003.9～2004.3	「奥の細道を読む」,大阪毎日文化センター。
	2002～2004	関西学院大学秋季オープンセミナーコーディネータ。司会。
	2000～2004	山村育英会 評議員

## 教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の有無（有）
文学部	教授	森藤真成	有無（有）

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 助教授	氏名 山本圭子	大学院の授業担当の 有無（有）
-----------	-----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価を含む)  英語のみで行う専門科目	1993年4月～ 現在	少人数の専門科目を原則として全て英語で行う。 受講生は英語で問題点を要約、議論し、より良い分析の提案を行う。個人/グループによるプレゼンテーションも英語による。受講生の理解度に応じて、bilingual methodに変更する年度もある。
2 作成した教科書、教材、参考書  自己作成したレジュメ	1990年4月～ 現在	専門科目におけるレジュメ。受講生自身が考える力を養えるように、質問項目、ディスカッションのテーマを各所に多く設けている。
3 教育方法、教育実践に関する 発表、講演等		無し。
4 その他教育活動上特筆すべき 事項  地域活動	2000年4月 ～2001年3月	児童英会話教室の講師をボランティアとして行う。

## 教育実践上の主な業績

所属 文学部	職名 専任講師	氏名 Andreas Rusterholz	大学院の授業担当の有無（無）
-----------	------------	--------------------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<b>1 教育内容・方法の工夫</b> （授業評価等を含む）  キリスト教と言語  キリスト教特論「死後の世界」について の講義  ドイツ語総合	2004年9月～ 2005年3月 2005年4月～ 2006年3月  2005年4月～ 2005年7月  2005年4月～ 2006年3月	ドイツ語の授業を除いて、他人数履修の授業で、コメントを書かせ、質問を提出させている。  ビデオ・写真・図を通して学生の関心を引き出して、理解を深める。又は現代の問題を取り上げて、授業内容の重要性を明らかにする。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b>  自己作製した資料	2005年4月～	ドイツ語の授業とキリスト教特論講義で使う資料。
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b>		
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>  文学部チャペルアワーの運営  富坂キリスト教センター理事	2005年4月～  2005年6月～	プログラムを担当している。  センターの理事として研究会プログラム委員

